

令和5年度 日本大学認定こども園 自己評価票

【本園の目指すこども園像】

本園は、日本大学教育理念の「自主創造」を基礎とした教育・保育理念「のびのびと自己を発揮し、人と共に生きる子どもに」に基づき、「心豊かな子ども・友達と遊びを楽しむ子ども・自ら環境にかかわって考える子ども」を育むことを教育・保育目標としている。

【本園の特徴】

広い園舎・園庭の豊かな自然との関わりから生命を尊重することを学んでいる。植栽を工夫し、園庭に集まる昆虫に園児の興味や関心を引き出すようにしている。また、食育の観点から野菜の苗を植えて収穫するなど、園児が協力して居心地の良い環境を作り上げている。

その他、特色ある教育活動として、リトミック・運動指導・英語教育等を実施し、様々な観点から心と体の成長を促している。

また、幼稚園機能による教育活動の後も、担任教員が引き続き園児の保育を受け持つことで、全ての園児が安心して過ごせるように努めている。

【令和5年度の重点目標】

- 1 地域子育て支援拠点事業及び子育て相談事業の充実
感染症対策を行いながらも弾力的な運営を行い、地域の子育て世帯が参加しやすい行事の実施を目指す。
- 2 「心豊かな子ども」「友達と遊びを楽しむ子ども」「自ら環境にかかわって考える子ども」の育成
子どもの人権を尊重した教育・保育を行うために、様々な研修を通し、教員の能力向上を目指す。
- 3 人的な面での保育の質の向上
幼児クラスの複数担任制の継続による手厚い教育・保育の実施を目指す。

【令和5年度の自己点検・評価結果】

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和6年度取組方策 (Action)
教育課程・指導	学びの芽生えの育成	友達と関わって遊ぶための「ごっこ遊び」の用具や小物を手づくりした。 園児が興味・関心を持ったことを自ら調べたり考えたり楽しんだりするために図鑑・絵本・紙芝居を準備した。 全身を使い遊ぶことを楽しむため、各年齢に合わせた集団遊び、運動を計画的に行った。	A	令和5年度取組を引き続き継続する。
	豊かな人間性の涵養	様々な昆虫（蝶（アオムシ）・カブトムシなど）やメダカなどの飼育や園庭に来る生き物を通じ、生命の大切さなどを学んだ。 自分たちで衣装を用意したりしながら臨んだこども会で、劇や歌を披露するまでの	A	令和5年度取組を引き続き継続する。

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和6年度の取組方策 (Action)
教育課程・指導		過程を通じ、協調性や感性を養うことができた。 年長児は、作品展でもテーマの決定から話し合いを重ねて行くことでお互いの意見を尊重することを身につけた。		
	健康な身体作り	発達の段階に応じて睡眠や食事、トイレトレーニングなどを実施し、生活リズムを整えた。 夏の水遊びやプール、寒い中での外遊びや運動指導を通じて、心身の調和的発達を図った。園児の体調に留意しながら外遊びを計画的に実施した。	A	令和5年度の取組を引き続き継続する。
園生活への配慮	安心・安全な環境と教育・保育	子どもの人権について教員が研修を重ねることで、適切な保育を実施した。 消防訓練や避難訓練等を毎月実施した。 アレルギーの事故防止のため、保護者との面談や給食ごとのチェック（ミルクを含む）を実施している。	A	令和5年度の取組を引き続き継続する。
	伝統や四季を感じる行事と環境工夫	日本の伝統的な文化・行事を積極的に教育した。 保育に取り入れながら、四季を感じられる行事食、季節感のある素材での製作、歌、表現活動を行った。 園庭や外構に季節に合わせた花を植えるなど、近隣にも喜んでもらえる環境作りを行った。	A	令和5年度の取組を引き続き継続する。
	食育	以下のような活動を行い、園児の食への関心を高めることができた。 ・大豆からの味噌づくり ・園庭の梅の実を使ったジュース作り ・季節の野菜の栽培と収穫 ・芋掘り遠足の収穫からスイートポテトづくりなどの自分たちで栽培した野菜の収穫等 給食にも季節の食材を積極的に取り入れた。	A	令和5年度の取組を引き続き継続する。
情報提供・管理	保護者への情報提供と共有	保護者からの問合せや相談について真摯に対応した。 気象災害等について、システムを通じて速やかな連絡を実施した。また、プリント類をPDFファイルで送ることで、保護者の	A	令和5年度の取組を引き続き継続する。

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和6年度の取組方策 (Action)
情報提供・管理		<p>利便性の向上を目指した。</p> <p>乳児の学年は毎日の連絡帳の記載を行い、乳児の成長の情報を共有した。</p> <p>幼児の学年は毎日の教育活動を文書等で知らせ、教育・保育内容の発信に努めた。</p>		
	ホームページの活性化	<p>定期的な更新を実施した。また、地域交流のイベントなどはホームページ上に新規にコーナーを開設し、子育て世帯への周知や入園希望者の確保につなげた。</p>	A	保護者や入園希望者にとって、更に分かりやすく、正しい情報発信を目指す。
	第三者評価の活用	<p>令和4年度に実施した第三者評価において、全体会議が定例化しており、会議の目的をどこにおくか常に確認の必要があるとの指摘がなされたため、執行部で今後の会議の在り方について随時検討した。</p>	A	次回の第三者評価の実施まで継続して検討する。
管理運営	教員の意識向上の徹底	<p>「世田谷区保育の質ガイドライン」、「保育教諭ハンドブック」及び「非常勤・保育補助職員ハンドブック」を基に、職員会議、カリキュラム反省会議及び学年会議等を実施してきた。また、他の園等で起きた事故や事件の詳細について共有したり、ハラスメント研修をしたりするなどを行った。</p>	A	<p>社会状況等の変化に合わせてハンドブックなどを更新し、研修を実施していく。</p>
	安全対策の徹底	<p>毎日のヒヤリハットなどの検証を実施し、事故が起こりそうな状況を生まないように検証してきた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症以外の感染症も含め、消毒等の対策を行った。</p> <p>優良防火対象物認定を取得した。</p> <p>様々な事件等に鑑み、教員と保護者の安心のために幼児クラスに事故対策用カメラ・園庭に熱中症対策の日よけを設置した。</p> <p>園庭でも聞こえるような放送設備を設置した。</p>	A	<p>災害時や不審者に対応できるよう避難訓練は工夫を続け、警備員も令和6年度から常駐とし、更に安全を確保する。</p> <p>安全対策の補助金を積極的に獲得し、今後、110番通報装置や緊急時の連絡用インターホンなどの設置を検討していきたい。</p>

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和6年度の取組方策 (Action)
管理運営	日本大学の学生及び付属校の生徒との交流	<p>以下のような交流活動を実施し、日本大学の学生及び付属校の生徒との交流を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三軒茶屋キャンパスの学生による学園祭での子ども向けイベントの周知 ・豊山女子高等学校の生徒による保育体験 ・医学部附属看護専門学校の学生の実習受入れ ・文理学部心理学科の学生の実習受入れ ・本学の学生による保育補助やプール指導・運動会の補助 ・生物資源科学部の学生による芋掘り遠足 	A	今後も積極的に実施し、園児や保護者の日本大学に対する良いイメージの形成に役立てたい。
保護者との連携・子育て支援等	保護者参加行事の実施	<p>運動会は三軒茶屋キャンパスのアリーナを借用し、保護者の負担が少なくなるように配慮した。</p> <p>保護者会等は土曜日に行い、保育園利用者も参加できるよう配慮した。</p> <p>感染症対策で中止していた親子遠足を実施し、保護者同士の関係構築につなげた。</p> <p>作品展の見学時間を登降園の時間も可能にすることで、働いていてもゆっくり見ることができるようにした。</p>	A	園の教育・保育の理念や目標が伝わるように、明確な目標のある保護者参加行事を実施する。 働いている保護者が増えているため、日程等は十分配慮する。
	保護者面談の実施	保護者からの要望に応じ、園長・副園長・担任が適切に保護者面談を実施した。	A	保護者との関係構築のため、引き続き継続する。
	子育て支援	子育てひろば「しろつめくさ」において、積極的に地域の子育て世帯向けのイベントを開催した。「おはなしやさん」などのイベントは園児も参加し、地域の子育て世帯との交流を図った。また、経験豊かな教員が子育て相談に応じ、保護者との信頼関係を構築した。	A	引き続き子育て中の親子や出産を控えている方が、気軽に参加できるイベントなどを開催していく。
地域との連携	近隣小学校との交流	園児一人一人が小学校生活をスムーズに始められるように進学先との連携を図った。	A	令和5年度の取組を引き続き継続する。
	近隣との交流	<p>園児が作成した梅ジュースや芋掘り遠足で収穫したサツマイモなどを自ら近隣に配りに行くなど、良い関係性を保つように努めた。</p> <p>保育補助や清掃業務等について、近隣住</p>	A	今後も、トラブルなくお互いが理解し合えるような環境作りに努めていく。

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和6年度の取組方策 (Action)
地域との連携		民からの募集を継続した。		
	保育ネット世田谷	災害時等の非常事態に備えての避難体制や日頃の情報を共有した。 他の園と情報を共有し、お互いの保育・教育の能力を高め合った。	A	令和5年度の取組を引き続き継続する。

〔令和5年度の自己点検・評価結果概要〕

各取組目標に真摯に取り組み、ほぼ達成できた。

特に様々な行事をコロナ禍以前の水準で実施することができるようになったことが、園児や保護者の満足につながった。

開園時間が長い中、教員の努力や日本大学のスケールメリットにより、手厚い教育・保育の実施が可能となった。

〔令和6年度の重点目標〕

1 近隣との交流の活性化

特に子育て世帯の支援に更に注力していく。

2 安全対策の実施

事件や事故の防止はもちろん、安全・安心かつ快適な保育環境の充実に努める。

3 教員の意識・能力の向上

教員の適正な人員確保により、能力向上のための研修参加を可能にする。また、第三者評価でも指摘された学校法人の教職員としてのキャリアパスについて検討する。

以 上